

July / August 2020  
No.6

A News letter from SCGO-JSOG Project  
on Women's Health and Cervical Cancer

# カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF  
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

## 小学校教員の健康教育に向けた ニーズアセスメント調査を実施しました

今年度予定している小学校教員を対象とした健康教育に先立ち、対象者の知識やニーズを知るためのアセスメント調査を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症流行によるカンボジア国内での休校や移動制限により、実施が延期となっていました。しかしこのたび、カンボジア側からの提案によって調査方法を電話インタビューに変更し、プノンペン市内の複数小学校の教員、計 100 名を対象に調査が実施できました。カンボジア産婦人科学会(SCGO)事務局が調査の様子を視察し、精力的なインタビューの様子が報告されました。今後、調査で得られたデータを分析し、小学校教員対象の健康教育プログラム・教材開発を行っていく予定です。

(国立国際医療研究センター 菊池識乃)



SCGO 事務局秘書(手前)による調査チームリーダーへの  
状況ヒアリング



電話インタビューの様子

## 前プロジェクト実務者がトレーナーとなり 子宮頸がん基礎講義を実施しています

7月より、前事業フェーズ(2015-2018年)で育成した産婦人科医がトレーナーとなり、事業対象病院(プノンペン市内の国立5病院)の産婦人科医を対象とした子宮頸がんに関する基礎講義が始まりました。これまで、「HPV感染と関連疾患」「HPVワクチン」「子宮頸部前がん病変の組織像」のテーマの講義が行われ、順調に進んでいます。トレーナーが答えられない質問があった場合には、日本産科婦人科学会(JSOG)の医師が返答しつつ、遠隔での支援を続けています。

(国立国際医療研究センター 春山怜)



実際の講義の様子。現在カンボジア政府より20名以上の会合が禁止されているため、それ以下の人数で開催

### ～ ミニコラム ～

#### 遠隔でも SCGO 秘書たちと連携して円滑に業務を進めています！

私は当プロジェクトの現地調整員ですが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け4月に日本に退避してきて以降、日本からリモートでSCGO 秘書・理事の皆様と連携をとってきました。リモートワークになってまず感じたのは、カンボジア社会の「良くも悪くもネット・SNS・個人情報に関してタブーが無い」という風潮に救われているな、という事です。

日本では仕事のツールとしてソーシャルネットワークサービス(SNS)を使うという事はまだタブー視されている部分があると思いますが、カンボジアでは皆、仕事中だろうと劇場に居ようと常に携帯電話をチェックし、時には大声で通話しています。そのため、メッセージを送ればいつ何時でもすぐにレスポンスが返ってくるのです。重要書類でも個人情報でも、Messengerで簡単に送信してきます。そのスピードの速いこと速いこと…。

そして右下の写真を見て下さい。これは私が、「Web会議をしている様子を写真に撮って送って欲しい」とスレイニック秘書に依頼し送ってもらった物です。携帯電話のポートレート機能を使って、一眼レフのように人物にフォーカスし、素敵に写真を撮ってくれました。これを何気なくやってしまうITネイティブ世代にも今回非常に助けられています。

一方で大変なこともあります。SCGO 理事や医師の皆さんとWeb会議を行うために、環境整備の一環として物品を購入したのですが、その見積を取得するにあたっては非常に苦労しました。例えば、パソコンの見積を依頼するとその辺のマーケットで買おうとし(すぐ壊れるC級品なので却下)、携帯端末の通話・通信プランを聞いても誰も分からない。モバイルWiFiについては、



Web会議の為に購入した物品の一部



ナレン秘書(手前)とカナル理事長(奥)

SCGO 秘書がお手上げ状態だったので、私が日本からカンボジアの電器屋に国際電話をかけ、必死に自分のメールアドレスを伝えて見積を送ってもらいました。Web カメラ/マイクスピーカーに至っては、別プロジェクトの日本人専門家にまでご協力いただき、何とか見積を取得しました。苦勞の末に整備したこの Web 会議環境を有意義に使って、今後も遠隔でしっかりとプロジェクトを前進させていきたいと思ひます。

(当プロジェクト現地調整員 佐野志野)

## ～ ミニコラム ～

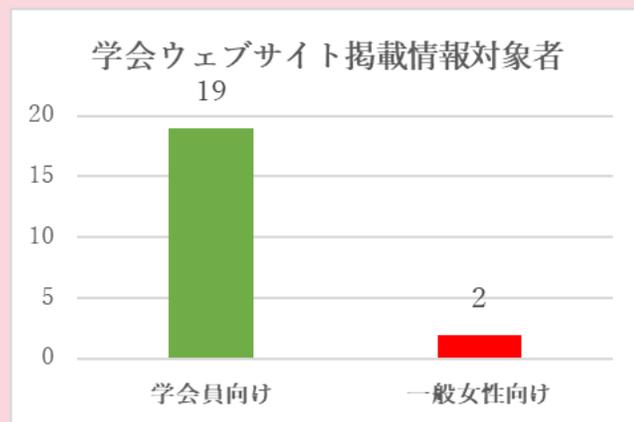
### AOFOG/FIGO 加盟学会のウェブサイトにおける情報提供状況調査

今年度はカンボジアへの日本人専門家の渡航が難しい状況ですが、健康教育は現状でも実施可能な活動を検討し、進めています。

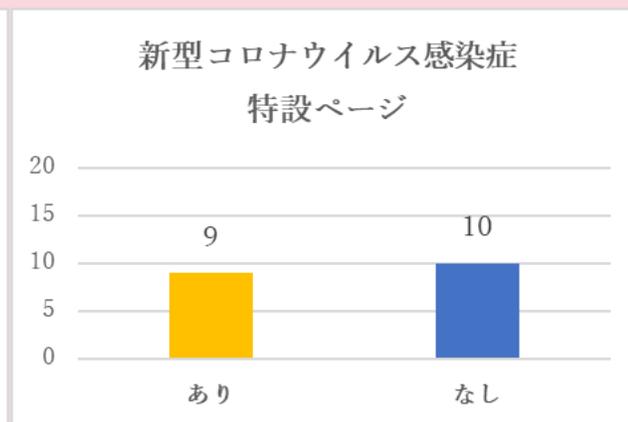
JSOG 医師からの「直接対面での健康教育が難しくても、ウェブサイトでの情報発信は可能なのでは」という助言がきっかけとなり、SCGO は ウェブサイト改変に取り組むことを決めました。まず参考として、アジア・オセアニア産婦人科連合 (AOFOG) または国際産婦人科連合 (FIGO) 加盟各国の学会ウェブサイトから情報収集を行いました。その結果、AOFOG 加盟 28 学会のうち アクセス可能であった 19 サイトでは、①すべてのサイトが学会員向け情報を掲載している一方、一般女性向け情報を掲載していたのは日本とオーストラリア・ニュージーランドの 2 サイト、②新型コロナウイルス感染症特設ページを設置していたのは、日本を含む 9 サイトでした。これらの結果をもとに SCGO と協議を行い、SCGO ウェブサイトの改変にあたっては、学会員のみでなく一般女性に向けた子宮頸がんおよび女性の健康に関する情報の掲載と内容の充実、また新型コロナウイルス感染症特設ページの開設といった方向性で合意ができました。

なお調査結果は、「産科婦人科領域の専門家集団である学会ウェブサイトは、学会員への情報発信に加え、一般女性の信頼できる情報源を提供していく重要な役割もあるのではないか」というメッセージとしてまとめ、JOGR にレター の形で発表しました。

調査結果①



調査結果②



Kikuchi S., Komagata T., Obara H. Letter to the Editors: Do the Asia and Oceania Federation of Obstetrics and Gynecology members' websites provide information targeting women in the context of the COVID-19 pandemic?

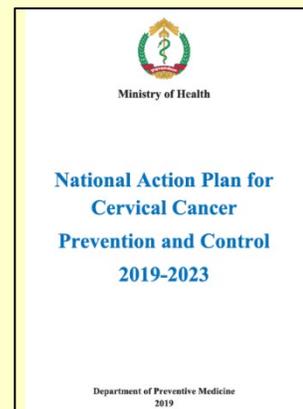
J Obstet Gynaecol Res. 2020 Aug 7;10.1111/jog.14377. <https://obgyn.onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/jog.14377>

(国立国際医療研究センター 菊池識乃・駒形朋子・小原ひろみ)

## ～ ミニコラム ～

## 子宮頸がん排除に向けた世界戦略とカンボジア保健省の動き

2020年8月12日、子宮頸がん排除に向けた世界戦略の承認が発表されました。これは、WHO加盟国による子宮頸がんの公衆衛生学上の排除(年齢調整罹患率10万人あたり4人以下)を目指し、2030年までに「90-70-90」を達成するための先10年間の世界戦略です。



カンボジア保健省によって策定された「国家行動計画」

「90-70-90」目標とは、

- 90%の女子が15歳までにHPVワクチン接種を完了する
  - 70%の女性が35歳までに1回、45歳までに1回、高い精度の検査法を用いた子宮頸がん検診を受ける
  - 子宮頸部病変(前がん病変・浸潤がん)が発見された女性の90%が適切な治療を受ける
- を指します。

2020年現在、カンボジアではHPVワクチン接種や検診はまだ普及しておらず、子宮頸がんの多くは進行期に発見され、がん治療体制も乏しいため死亡率がとて高い状況です。しかし、保健省は、子宮頸がんを優先健康課題の一つとして掲げ、子宮頸がんの予防とコントロールについての国家行動計画(National Action Plan for Cervical Cancer Prevention and Control 2019-2023)(以後 国家行動計画)を策定し、対策を積極的に推し進めようとする機運があります。

HPVワクチン接種に関しては、2017年に12,000人の9歳女子を対象にパイロット導入が行われ、全体で93%と高い接種率を得ており、2021年に全国導入が予定されています。Gaviワクチンアライアンスの枠組みでの導入ですので、比較的高い接種率を実現できるのではないかと推察します。子宮頸がん検診と治療の改善が大きな課題で、全土に300名以上の学会員を有するカンボジア産婦人科学会(SCGO)に期待が寄せられています。検診手法としてこれまでは酢酸による視診(VIA)が使われてきましたが、世界戦略で推奨されている、より精度や結果の客観性の優れたHPV検査を全国レベルでどう実施・展開していくか、SCGOは保健省に助言する役割を担っていると言えます。

SCGO-JSOGは、2015-2018年度JICA草の根技術協力事業(第1フェーズ)を通じて、一般女性を対象とした健康教育教材開発、カンボジアの状況に応じたHPV検査によるプロトコルの検討、コルポスコピー等子宮頸部病変診断・治療の技術支援を行ってきました。現在実施中の第2フェーズは、引き続きSCGOの組織強化、子宮頸部病変診断・治療技術を更に広げるためのトレーナー育成を通じて、カンボジアの子宮頸がん対策の実施に貢献しています。

カンボジアの国家行動計画が策定された2018年頃と比較し、現在は更に世界的に技術革新と検査技術の低価格化が進んでおり、上述した世界戦略においてもHPV検査または同等以上の精度を持つ検査法による検診が推奨されています。世界戦略に整合して、今後、2024年以後のカンボジアにおける子宮頸がん予防とコントロールの計画が策定されていくことが想定されており、本事業のフェーズ1、フェーズ2の事業からの知見を活かして、この国家計画に対しても技術的インプットをしていけると考えています。

(国立国際医療研究センター 春山怜・小原ひろみ)